



真宗高田派本山 専修寺

# 高田本山だより

令和7年 冬号

144



高田本山 HP

令和7年 冬号（第144号）／発行・令和7年12月1日／〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 [www.senjuji.or.jp](http://www.senjuji.or.jp)



仏教保育合同参拝で、ことしも秋空高く風船が放たれました。



仏教保育合同参拝で、園児による献花、献灯、献香が行われました。

冬の深まりを感じる季節となりました。  
仏教保育の合同参拝が盛大に執り行われ、大勢の園児たちが一堂に会しました。  
子どもたちの純真な笑顔と、仏さまに見守られて手を合わせる姿は、私たち大人に大切な教えを改めて思い出させてくれます。  
風船がどこまでも高く昇っていくように、子どもたちが仏さまの慈悲の心に包まれ、感謝の気持ちを忘れず、それぞれの未来へと羽ばたいてくれることを心より願っております。

# 「いい天気、悪い天気も自分の都合」



今年の夏は例年より暑く感じ、暑さが十月頃まで続いた気がします。十一月に入ると一気に冷え込み、少し前までは早く涼しくならないかなと思っていたものがすぐに早く暖かくならないかなと変わりました。

十月の終わりごろには雨が多くなり、外に出る時も傘を持たないといけないので荷物が増えたり、雨に濡れたり、嫌な天気が続きました。

自分は文句ばかり言っているなと思った時、昔学校に通っていた頃、毎日通るお寺の掲示板に「いい天気、悪い天気も自分の都合」と書いてあったことを思い出しました。

暑さ、寒さ、雨の日は私の都合によってできた悪い天気でした。私

の横の家に住んでいる人はもしかするとその天気を喜ばれていたかもしれません。

雨がないと草木は枯れてしましますし、冬の寒さがないと植物は次の春に強く育つことが難しいそうです。

本質をみれば、良い悪いなんて無いものをどうしても自分の都合で見ってしまう私に気付かされました。

この私の有り様に気づかれ、御開山親鸞聖人は『高僧和讃』の中に「煩惱にまなこさへられて摂取の光明みざれども大悲ものうきことなくてつねにわが身をてらすなり」というお言葉をお書きになられました。

私たちは自分中心に色眼鏡を通

して物事を見てしまうばかりに、物事をありのままで見ることができません。

阿弥陀様のお救いの光にも気づくことができません。

しかし、阿弥陀様は絶えることなく私を大いなる慈悲の心で照らし続けてくださるのであります。

私たちが生きる上でどれほど気を使ってもこの色眼鏡は外れることはありません。

どうしても、自分の都合で物事を見てしまいますし、私は、自分の人生ですから自分の都合で生きたくなるのは当然の事だと思っています。

ですが阿弥陀様の有り様を知った時、自分の行動を思いかえして、自分の都合で見てたなと考え方が変わるのかなと思いました。

三重県第十組

延寿寺衆徒 富山翔眞

御本山御用達

## 鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）  
電 話 (075) 371-0854・8181～2番  
FAX (075) 344-2701番  
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年



## 松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘

執行役員支店長 野村守宏

本 社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150  
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

浄土真宗なんでもQ&A

莊嚴

# お香



佛事一般にお香は欠かせません。お参りでも焼香をすることが当たり前となつています。その作法についてはあちこちで紹介されていますので、ここではそもそもお香って何のためにあるのかを尋ねて参ります。伽羅、白檀などかぐわしい香りは人の嗅覚を通して緊張をほぐし、心を落ち着かせ集中力を高めるはたらきなどをします。佛教とのつながりは古く釈尊在世の頃、多くの弟子たちが釈尊のもとに集い教えを聞く場において、お互いの体臭などに気が散らないよう香りのよい木（香木）を焚き芳香を満たして説法に集中させたのが始まりだともいわれます。やがて日本には佛教とともに大陸より伝わり、佛さまへの供養として儀式には欠かせないものとなりました。お香の功德はお経にも説かれ、無量寿経にはお浄土の世界には常に

よい香りが満ち、その香りを嗅ぐものは佛道に励むようになるとあります。つまりお参りの際にお香が焚かれるのはその香りでもってお浄土の世界を模し、お灯りやお花のように佛さまの功德を表す要素のひとつとして尊ぶ心の表れなのでしょう。

さて、親鸞聖人にとってお香とはどのような意味をもったのでしょうか？ご和讃に尋ねてみましょう。

染香人のそのみには  
香気あるがごとくなり

これをすなわちなづけては  
香光莊嚴ともふすなり

（大勢至和讃六首）

「染香人」とは香りが身に染みかぐわしい人のことで、お念仏の信者をたとえたものです。法然上人は阿弥陀如来の名号にははかり知れない功德が備わっていて、それは丁度お香に薫じられた衣を

羽織ればその人に香りが移るように、本願の智慧に薫ぜられた名号を「南無阿弥陀佛」と称える者には智慧の功德が移り必ず往生する者になると仰っています。

続いて親鸞聖人は「香気あるがごとく」と記されています。言い換えれば「香気はない」という意味です。これは香気というような智慧や功德の素は自分の内には「あるがごとく」、つまり本当は無いということとです。お念佛をいただきながらも決してこの私が智慧を備えたものになるわけではありません。右も左もわからないようなこの身は変わりやうがないのです。衣を脱いで風呂に入ってしまったばそれまでの芳香も消え失せてしまうようなものです。こんな救いようもない私をそのまま香りで包み込むように南無阿弥陀佛がはたらいてくださるのです。そうしたありようを親鸞聖人は「香光莊嚴」と讃嘆され、この私が救われる道理をお香の特性に譬えていただけているのです。

（教学院第三部会）

伝統を引き継ぐ左官職人舎

一層築舎

Sochikusya Co.,Ltd

伝統的な社寺建築、古民家や一般住宅・店舗の修繕、リフォーム、リノベーションなど、自然素材を活かした壁や空間を提案します。

建築工事 / 左官工事 / 外構工事 / 現場施工管理

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusya@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店



代表取締役社長 今岡規代  
●本社  
600-8768  
京都市下京区堀川通  
新花屋町角（西本願寺前）  
Tel 075-351-1234  
0120-075-720  
Fax 075-341-7905  
●東京店  
160-0008  
東京都新宿区四谷  
二栄町十四番地11  
Tel 03-3358-1500  
Fax 03-3359-8902

オンラインショップはこちらから →

## 「燈炬殿だより」

令和八年お七夜特別展観

## 「高田のはじまり〜ふたつの専修寺」について

私事になりますが、先日福井県勝山市にある県立恐竜博物館運営協議会に出席しました。協議会終了後の雑談の中で、県のPTA連合会の代表委員の女性から、高田短期大学の名称について尋ねられました。三重県津市には、真宗高田派本山専修寺という寺院があり、このお寺の関係の皆さんが設立・運営されている短期大学ですとお伝えしました。また、私自身、本務は、専修寺宝物館「燈炬殿」の館長であることもお伝えしましたところ、実は、私は他宗派から、高田派の檀信徒のおうちに嫁いだのですよ、とのお返事。そこで、高田派は、親鸞聖人のお弟子さんによって受け継がれている宗派

であること、私たちは生きている間からすでに阿弥陀仏の救いのはたらきによって見守りいただいていること、またそのことに感謝の気持ちを含めて南無阿弥陀仏と称えることなど、門前の小僧習わぬ経を読む式に伝えました。すると、なるほど深い教えの教団なのですと、高田派のお家に嫁がれたことを喜んでおられました。親鸞聖人とは、まったく無縁と思っていた恐竜博物館で、このような出会いがあることに驚くとともに、ご縁というものの深さに思いをいたしました。

さて、師走の声を聞くこの頃、宗祖親鸞聖人のご往生の日である一月十六日までの七昼夜の期間勤めら



頭智上人 御名号

れるご本山のお七夜報恩講まであと一か月余りとなって参りました。宝物館燈炬殿では、過去にお七夜に合わせて、

「伝統く燈火を伝える歴代人」、「絵伝でたどる高田のものがたり」とお七夜特別展観を開催してまいりました。

令和八年で三回目となるお七夜特別展観は「高田のはじまり〜ふたつの専修寺」というタイトルで、一月九日より二月十五日まで開催いたします。

ご案内のように、真宗高田派には、三重県津市一身田にある本山専修寺、栃木県真岡市高田にある本寺専修寺と、ふたつの専修寺があります。親鸞聖人は流罪を赦された後、真仏上人らとともに関東で教化活動を行われましたが、その拠点となったのが



本寺 如来堂

ええじゃないか  
〜いい旅いい発見〜

毎週月曜日 よる7時  
(毎週土曜日 ひる12時再放送)

TVで放送し配信中!

三重テレビ放送

高田本山御用達  
三重県仏教会御推薦

石碑  
記念碑  
燈籠

高級御影石専門店

御影石材(株)

(石に御用の方は) イシニコヨロ

☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎059-224-1700(代)

栃木の本寺専修寺です。

言い伝えによれば、「聖人は下野国芳賀郡大内庄柳島（現在の栃木県真岡市）において平石の上でお念仏して一夜を明かされていた。そのとき手に柳の枝と白い薄絹の包みを持ったひとりの童子が現れ、『我は明星天子。本地は極樂の聖衆虚空藏菩薩である。あなたに伽藍の霊地を示すため、ここにやって来た。早く伽藍を建立し、この柳の枝と菩提樹の実を植えなさい』と言った。聖人は『この地は水田となつていて、どうやって伽藍を建てるのか』と問うが、童子はだまって水中へと飛び込んでいった。聖人はためにしに受け



本寺 三谷草庵

取った柳の枝を水田に指し、菩提樹の実を平石のそばに植えて、また平石の上戻られた。夜が明けると、不思議なことに先ほどの柳と菩提樹は一夜にして大きく育って枝葉はあちらこちらにしげり、水田は中央が突き出でて高く堅い地盤となつていった。」

このときからこの地を「高田」と呼ぶようになったと伝えられております。栃木の専修寺は、親鸞聖人の関東での教化活動の中心であり、高田派の名の由来を伝える寺院として、真宗高田派において非常に重要な存在です。

令和五年五月、本山で勤められた奉讃法会にあわせて、三重県総合博物館では、特別展「親鸞聖人と真宗高田派本山専修寺」専修寺国宝からひろがる世界」が開催されました。その前年に、本寺において出陳の品々についての打ち合せがおこなわれましたが、私も同行する機会を得ました。

凜としたたずまいの本寺を初めて参拝したあとに本寺から少し離れた場所にある、親鸞聖人が一時お住まいになったと伝わる三谷の草庵に

もご案内いただきました。質素ながらも、自然豊かな山裾にたたずむその草庵は、聖人が教えを深められるにふさわしい静かな環境であり、そこで聖人が思索を重ねられた情景を思い描き、感銘を受けました。

令和八年お七夜特別展観「高田のはじまり〜ふたつの専修寺」では、まず、本寺のご厚意でご出陳いただいた親鸞聖人座像、親鸞聖人絵伝に加え、本山の真仏上人、顕智上人像を展示し、本寺で教化を共にされた親鸞聖人、真仏上人や顕智上人のご遺徳を偲んでいただきます。また、本寺と本山の古地図等を通して、ふたつの専修寺をより親しく感じていただければと考えております。さらに、お七夜に拝読される式文などの典籍、お七夜に用いられるお飾りである提灯なども展示いたします。これらの法宝物をご覧いただきながら、高田派の草創期に思いをはせ本寺の情景を思い描いていただければ幸いです。

真宗高田派本山専修寺宝物館

「燈炬殿」館長 大野照文

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

対話から生まれる情報発信や  
プロモーションをサポートします！

三重に暮らす・旅する WEB マガジン

OTONAMIE

otonamie | 14,500フォロワー突破！  
mail otonamie@gmail.com  
tel 059-268-3538 (壽印刷工業株式会社)



お寺の実績  
紹介記事

お寺とともに  
地域をつくる。

## 永田文昌堂

最新刊

曇鸞の浄土仏教思想論

武田 龍精著

定価2,530円(税込)

曇鸞浄土仏教が大乗仏教思想に与えた影響と思想史的意義を考察する。主な内容として、浄土論と往生論註との解釈学的関係 / 救済論成立の根拠 / 底流にある他力的哲理 / 曇鸞・道綽・善導における仏身論の比較思想論 / など。

鏡如上人(大谷光瑞)及び壽子裏方年譜

赤松 徹真編

定価15,400円(税込)

本年譜は、本願寺教団の管長・宗主として多角的な視野と構想により教団を統率・運営し、内閣顧問などにも就任した鏡如上人(大谷光瑞)と、総裁として各地の仏教婦人会の結成や活動に尽力した壽子裏方の事績を編集したもの。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■ TEL 075-371-6651 ■ FAX 075-351-9031

# 報恩講説教一覽表（令和八年一月）

	じんちよう 晨朝（午前7時）	にっちゅう 日中（午前10時30分）	たいや 速夜（午後2時） 9日のみ（午後12時30分）	しよや 初夜（午後4時30分）	だいこうどう 大講堂（12時30分）
9日 （金）			田中 唯徳 鈴鹿市 欣念寺衆徒 律師 助教	佐藤 弘道 津市 浄徳寺住職 中僧都 証義	
10日 （土）	松山 智慧 鈴鹿市 随願寺副住職 律師	真置 信海 松阪市 法性寺副住職 権少僧都	水谷 忍英 鈴鹿市 本照寺住職 律師	里榮 秀教 鈴鹿市 法林寺住職 権中僧都 証義	島 義厚 大阪市 聖賢寺住職 権中僧都 証義
11日 （日）	吉尾 真祐 大阪市 大乘寺副住職 律師	戸田 栄信 岡崎市 浄泉寺衆徒 権大僧都 擬講	浦井 宗司 鈴鹿市 深藕寺住職 権大僧都 証義	富田 健自 鈴鹿市 福萬寺住職 律師	松田 信慶 和歌山市 崇賢寺住職 権大僧都 輔講
12日 （月・祝）	北畠 心淳 鈴鹿市 称名寺副住職 律師 助教	藤浦 弘導 鈴鹿市 浄国寺住職 権中僧都 証義	芳川 賢史 津市 報恩寺住職 中僧都 擬講	佐波 真教 多気郡 明通寺住職 権大僧都 輔講	安藤 純海 岡崎市 蓮珠寺住職 律師
13日 （火）	三井 蓮孝 名古屋市中 蓮教寺住職 権中僧都 証義	千草 篤昭 津市 善休寺住職 少僧都	大河戸 悟道 豊橋市中 正太寺住職 律師	隆 妙灑 四日市市中 浄福寺住職 律師	中村 宜成 四日市市中 光輪寺住職 権中僧都 証義
14日 （水）	松谷 慧光 四日市市中 中山寺衆徒 大律師	田中 明誠 鈴鹿市 欣念寺住職 権中僧都 証義	岡 知道 四日市市中 立法寺住職 少僧都 証義	栗廼 隆興 四日市市中 誓覚寺住職 権中僧都 証義	島 義恵 岡崎市 聖洞寺住職 権大僧都 擬講
15日 （木）	栗真 光暁 津市 善行寺副住職 権中僧都 証義	御 親 教	金森 顕宏 大野市 専福寺住職 権大僧都 証義	戸田 恵信 岡崎市 浄泉寺住職 中僧都 証義	花山 光瑞 明和町 迎接寺前住職 少僧都
16日 （金）	生桑 崇等 津市 来照寺衆徒 権中僧都 証義	藤井 徳雄 鈴鹿市 了性寺住職 中僧都 証義			安田 真源 京都市 安立寺住職 権中僧都 証義

特別講演（如来堂 午前9時）

復 演（御影堂 御親教後）

13日 （火）	① 松山 智道 鈴鹿市 随願寺住職 権中僧都 輔講	14日 （水）	② 藤田 正知 津市 延命寺衆徒 権中僧都 擬講	15日 （木）	栗原 廣海 四日市市中 誓元寺住職 権中僧都 鑑字
------------	---------------------------------	------------	--------------------------------	------------	---------------------------------

## 2026 年お七夜予定表

1月9日 （金）	09：00 高田学苑参拝 17:40 頃 専修寺お七夜竹あかり 点灯式
1月10日 （土）	15：30 お七夜おたのしみ布教大会（大講堂）
1月11日 （日）	13：00 お七夜子ども大会 13：00 お七夜高田派青年会 15：30 お七夜おたのしみ布教大会（大講堂）
1月12日 （月・祝）	09：30 はたちの集い受付（宗務院） 15：30 お七夜おたのしみ布教大会（大講堂）

1月13日 （火）	09：00 特別講演（如来堂）① 11：00 責任役員会受付（御影堂前） 13：00 お七夜婦人連合会（御影堂）
1月14日 （水）	09：00 特別講演（如来堂）② 10：00 他山御焼香（御影堂） 13：30 お七夜坊守会受付（宗務院）
1月15日 （木）	11：50 法主褒賞授与式（御影堂） 12：30 国宝御影堂特別拝観（御影堂13：30まで） 16：30 お七夜婦人連合会初夜参詣（御影堂） 19：00 白塚念仏講（御影堂） 23：00 後夜
1月16日 （金）	09：00 御参廟

### ■専修寺お七夜竹あかり

境内にて：1月9日～15日 16時30分より 19時閉門  
（15日は23時30分閉門）  
子ども竹あかりを同時点灯いたします。（9日のみ17時40分頃点灯式）

### ■お七夜献書展

大玄関廊下にて1月9日より16日

### ■ののさまをえがこう展

御対面所にて1月9日より16日

### ■雲幽園見学

1月9日より16日 10時・13時  
茶所受付（ただし9日は13時、16日は10時のみ）

### ■宝物館 お七夜特別展観『高田のはじまり ふたつの専修寺』

宝物館燈炬殿にて：お七夜期間中1月9日～16日（最終入館15:30）  
観覧料：一般1,000円（団体900円）、中高生500円（団体400円）、小学生以下無料 ※ 団体10名以上  
※ 特別展観は令和8年2月15日まで開催いたします、詳しくはHPをご参照ください

## こんな行事がありました

### ■法話発表会

九月四日には法話発表会がありました。聴聞者は真剣な法話発表にうなずいていました。



### ■得度・住職拝命

十月十日、得度は三名、住職拝命は五名でした。布教に携わる決意あらたに、三重はもとより東京や福井などから臨まれました。

### ■第77回檀信徒研修会

十月十六日に開催された「第77回檀信徒研修会」では「すぐに分からなくとも、自己と深く向き合い「智慧」に触れる入り口となった」「南無阿弥陀仏をとえたら良いだけの宗教ではない」「深い理解のきっかけとなった」「僧侶や他の参加者との対話が有意義だった」との声をいただきました。

### ■三重県仏教保育協会合同参拝

九月十九日には三重県仏教保育協会合同参拝がありました。

子どもたちが卒園までにきちんと手を合わせ「なもあみだぶつ」とお念仏できる子に育ってほしいという「育て仏の子」の願いをもとに、仏教保育会同参拝は行われます。恒例の風船上げも行われ、子どもたちの元気な大歓声に包まれていました。昨年は愛知県岡崎市まで飛んで行きました。



### ■納骨堂法会、秋法会、資堂講法会

十一月三日・四日に納骨堂法会、そのあと五日から十日まで秋法会、八日から十日まで資堂講法会が勤まりました。

納骨堂法会の御参廟は如来堂からの行列で始まり、親鸞聖人の墓所である御廟、納骨堂、第二納骨堂を参堂し、最後に御影堂でお勤めします。亡き人を縁として念仏にであい、今を生きる私を見つめ直す法会ともいわれています。死生観が急速に変化している現代においても、多くの参拝者に恵まれました。また境内の休憩所では納骨堂法会法話会が行われました。



檀信徒研修会

### ■教学院研究発表大会

十月三十一日、教学院の主催する研究発表大会が高田会館ホールにて開催されました。講師は鈴鹿大学の川又俊則先生で「持続可能な寺院をめざして」という題でお話いただきました。

様々な宗教法人の活動や統計データを通じた内容は、今後の寺院運営において重要な問題提起の時間となりました。



御参廟の様子

## ■初参式

十一月九日、初参式がありました。

乳幼児の初めてののお寺参りのことで、法主殿臨席のもと、仏の子として阿弥陀さまにご挨拶をする姿に、笑顔が広がりました。



法主殿にも祝福されて

## ■「ののさまをえがこう展」

お七夜期間中に御対面所にて園児たちの描いた、元氣いっぱいなほとけさまの作品展「ののさまをえがこう展」が行われます。どうぞお誘いあわせの上お越しください。



## ■「専修寺お七夜竹あかり」

次回のお七夜でも「専修寺お七夜竹あかり」が開催されます。幼稚園・保育園をはじめ小中高生、老人ホームの皆様や協賛の作品が一斉に境内を彩る様子に、問い合わせも増えてまいりました。前回の様子は高田本山のホームページからご覧いただけます。



お七夜でお楽しみください

寺院名

## 法会・行事案内

- 修正会 一月一日～三日
- 報恩講 一月九日～十六日
- お七夜高田派青年会 一月十一日
- お七夜子ども大会 一月十二日
- はたちの集い 一月十三日
- 責任役員会 一月十三日
- お七夜婦人連合会 一月十三日
- お七夜坊守会 一月十四日
- お七夜婦人会初夜参詣 一月十五日
- 専修寺竹あかり 一月九日～十五日
- お七夜献書展 一月九日～十六日
- ののさまをえがこう展 一月九日～十六日
- 防火訓練 一月二十二日

世界中の多くの方々と仏縁を結ぶために、高田本山ではYouTube「専修寺チャンネル」をはじめ様々なデジタル技術を活用しています。国宝彫刻群などを動画などで紹介する「高田本山デジタルブック」もごさいますので、どうぞアクセスください。

